

令和2年度 赤穂市学校(園)評価 外部評価報告書

学校園名 赤穂市立御崎小学校

1 本年度の学校(園)経営方針

<p>「夢をもち 心豊かで 自ら考え行動できる児童の育成」を学校教育目標とし、知・徳・体のバランスのとれた児童の育成をめざす。そのため、めざす学校・教師・家庭像を明確にして学校経営を推進する。</p>		
<p><めざす学校像> ◇全ての児童が安心して学べる安全な学校 (いじめ、暴力の防止) ◇教職員全員がチームの一員として誇りと自覚を持って、職務を遂行する学校 ◇凡事徹底ができる学校 ◇家庭や地域と共に児童を「共育」する学校コミュニティの創造</p>	<p><めざす教師像> ◇児童一人一人の良いところや成長を認め、ほめて伸ばす教師 ◇児童一人一人に居場所のある学級を経営を行う教師 (よいものを光らせる よいものを認め、広める) ◇教育の専門家として学び続ける教師 (得意分野づくりを通じた指導力の向上)</p>	<p><めざす保護者像> ◇わが子とじっくり語り合える保護者 ◇わが子にめあてをもたせ、実現に向けて励ます保護者 ◇家や地域でわが子の手本となるよう努める保護者</p>

総合的な学校園関係者評価

・学校自己評価については、その内容および改善方法ともに適切である。コロナ禍の中で、学校行事の規模縮小や中止になりながらその開催方法を工夫し、学年を超えて仲がよくなりまとまりのある集団となるような様子が伺え、御崎小学校としての一体感が随所に感じられる。今後も保・幼・小・中の連携がしやすい地理的環境を生かしつつ、地域や家庭と協力して教育活動の充実を図ってほしい。

・防災教育については、学校防災体制推進校事業を行う中で、避難所マニュアルなどの見直しや避難訓練を実施するなど計画的に行われている。これからは計画的・継続的に避難訓練を行うとともに、今後も、保・幼・小・中学校や地域と連携した津波の避難訓練なども、計画し行って欲しい。

・保護者へのおたよりだけでなく、学校だよりの地域回覧等によって学校の取組や児童の様子が地域住民にもよく分かる。児童が落ち着いた環境で安全に学校生活を送れており、保護者、地域住民も安心している。児童を取りまく社会環境が不安定なので、これからは特にネット問題の研修会等には今後も保護者や地域住民も参加できるようにしてほしい。

・「早寝・早起き・朝ごはん」運動をこれからは継続的に続けられたいとともに、一人一人の様子をよく観察し、個別に声をかけて欲しい。また、これからはPTAや地域と協力して、「あさがお運動」に取り組んで欲しい。

2 本年度の学校(園)重点目標

重点I 確かな学力の確立	重点II 道徳教育の充実	重点III 人権教育の充実
重点IV 思いやりの心の育成	重点V 健康・安全・体力づくりの推進	重点VI 児童理解に基づく生徒指導の充実
重点VII キャリア形成の支援	重点VIII 特別支援教育の充実	重点IX 学校業務改善の推進

3 自己評価結果 (A~D) A:達成した B:ほぼ達成した C:あまり達成できなかった D:達成できなかった

領域	観点(重点目標)	評価項目(学校園・教師の取組)		評価資料	達成状況	改善の方策	◎:適切である ○:ほぼ適切である △:あまり適切でない ×:適切でない		
		評価指標	および目標値(期待される姿)				自己評価は適切か	改善方策は適切か	課題と来年度具体的改善方法
学校	開かれた学校づくり(家庭・地域・学校間との連携)	項目	学校教育の情報発信・啓発	アンケート	B	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は、コロナ禍のため多くの行事が中止や形態を変えた開催になった。そのため、昨年度までのように地域の特色や人材を生かした教育活動が、十分には行うことが出来なかった。コロナ禍がおさまれば昨年度以上に家庭や地域の教育力を生かした教育を推進していきたい。 保幼小ならびに小中連携事業を継続し、異校種間の児童・生徒理解を深める。 	○	○	<ul style="list-style-type: none"> 「学校だより」により学校の取組がよく分かる。また、参観日やスポーツフェスティバルなど学校行事を通して学校の様子を見る機会もあり、子供達の元気な様子がうかがえ安心した。 コロナ禍がおさまれば、光和会(老人会)を中心に地域の高齢者と児童の交流学习を地域とのつながりという観点から継続して欲しい。 高齢者への友愛訪問も高齢者の方が、大変喜ばれるので来年以降も続けてほしい。
		項目	住民参加の地域の特色を生かした教育活動の推進	アンケート					
		項目	異校種・学校間・学年間の連携教育の推進	授業交流					
運営	生徒指導	項目	好ましい人間関係をつくる組織的な協力体制の充実	児童の様子	A	<ul style="list-style-type: none"> 「生徒指導委員会」を中心に児童の実態に基づいた毎月の指導事項を引き続き協議、共通理解のもとで生徒指導に取り組む。 今後も「いじめ対策委員会」・「不登校対策委員会」で事案の共通理解をし、その対応を練り全教職員でよりよい方向に向け取り組む。 保護者の評価も低く、PTAと協力しこれまで以上に「あさがお運動」を推進していきたい。 	○	○	<ul style="list-style-type: none"> いじめ問題や不登校問題に対して家庭環境にも配慮して対応されている。アンケート結果からいじめ問題に対して細かく対応されている。保護者が不安を抱かぬように児童へのきめ細かな観察と声かけ、家庭との連携を密にして次年度も進めてほしい。 あいさつを自分から進んで出来る子は少ないので「あさがお運動」の取組を継続し、どの子も進んで挨拶できるようにPTA・地域と協力して挨拶運動を深めてほしい。
		項目	児童生徒の内面理解に基づく生徒指導の充実	児童の様子					
		項目	挨拶運動の推進	児童の様子、アンケート					
健康教育	健康意識向上と自己健康管理能力の育成	項目	業間・昼休みの時間の外遊びや継続的な体づくり運動、手洗いの励行等を進め、児童の健康管理意識の向上に努めた。	児童の様子	A	<ul style="list-style-type: none"> 赤穂特別支援学校やSCなどの協力を得ながら不登校傾向、特別な支援を要する児童の心の居場所となる学校づくりを継続する。 「早寝早起き朝ごはん」運動では、学校と家庭で成果と課題を共有し児童に関わるよう 	◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> 家庭や地域、保・幼・中などと連携し、児童の健康の保持増進や体力の向上によく取り組んでいる。 これまで以上に学校関係者と連携をし、その心の居場所作りにつとめて欲しい。 学校では「ノーメディアデー」の推進の呼びかけやイ
		項目	保健室の管理・運営	保健記録、児童の様子					

		項目 指標	「早寝・早起き・朝ごはん」運動の推進 推進委員会の計画に基づき、望ましい食習慣・生活習慣の定着に向け、家庭の協力を得ながら推進した。	アンケート 教職員自己評価		連携を深める。ネット使用のモラル向上を講演会や情報教育で一層推進する。			インターネット、SNSなどの使用のルールやモラル向上のために家庭への啓発を一層進め、今後は講演会等も積極的に行って欲しい。
安全教育 防災教育	項目 指標	防災教育・安全教育の実践 授業や防災訓練などで防災・減災の意義を伝え、児童の防災スキルや防災意識を高めている。		防災授業研究 避難訓練の実施 教職員自己評価	A	外部講師を活用し防災訓練の実施方法の再検討（特に津波避難）をした。今後もマニュアルの見直しや児童の実態により即した訓練方法を検討し、児童自身による身の守り方のスキルや安全意識を高めていく。 避難所開設マニュアルをいかした職員研修を行った。また、今後、防犯面での研修も計画を進める。	◎	◎	様々な訓練を保・幼・小合同で実施することは続けて欲しい。特に、避難所管理運営マニュアルを活用するなど、今後も防災体制の整備を地域との連携を密にして深め、より防災意識を高めていくことが必要である。 自転車の乗り方指導などを自分の身を守るために、学校で指導するだけでなく、PTAと協力して、保護者へも啓発をする必要がある。
	項目 指標	危機管理体制の整備と実践的な研修・訓練 防災計画や危機管理対応マニュアルに基づき緊急事態に対応できる。		校内研修会 教職員自己評価					
	項目 指標	児童の安全意識の向上 学校と家庭が連携して登下校指導や校外・校内生活指導を充実させ、児童の安全意識の向上に努めた。		児童の様子 アンケート					
組織運営	項目 指標	学校の教育目標達成のための学校運営・責任体制の整備 よりよい学校、教職員集団、自分になるために、報告・連絡・相談体制を徹底し、責任をもって校務分掌を遂行している。		教職員自己評価	A	受容的な職員室の雰囲気、協働性や同僚性のある職員組織を継続し、年齢や性別に関わりなく互いに学び合う組織の充実を図る。 学級経営報告会・特別支援教育校内委員会を中心に、成果と課題を学期ごとに確認したり、児童の様子について交流し次学期に取り組む。 昨年度に比べ、定時退勤を多くの教職員が出来た。勤務記録簿への記録による勤務時間の自己管理など、適正化の対策が必要。	◎	◎	今年度は来校する回数は少なかったが、その中で児童だけでなく先生方の表情の明るさや雰囲気のよさを感じる。御崎小学校がチームワークを大切にし教職員一丸となって児童の教育にあたっておられることが伝わってき、安心できる。 教職員の勤務時間や水曜日が定時退勤日であることを学校だよりや運営協議会で知った。遅くまで仕事をされているようなので、先生方も健康にも気をつけて欲しい。保護者や地域住民に周知することは学校への理解を深める意味でもよいことだ。
	項目 指標	教職員の共通理解に基づく学級づくり・授業づくり 教職員がよく連絡を取り合い、互いの学級経営の状況を把握し学年・学年部等でそれぞれの課題の共通理解を図りながら学級経営や授業を進めた。		教職員自己評価					
	項目 指標	学級経営の基本理念 児童が学校生活を楽しいと感じられるような支持的風土や学習環境づくりを努めた。		教職員自己評価 児童の様子					
	項目 指標	勤務時間の適正化 超過勤務を縮減し、定時退勤日には定時退席し、心身の健康管理に努める。		教職員自己評価 勤務記録簿					
教職員の 資質と実践 的指導力 の向上	項目 指標	教育の専門家としての実践的指導力の向上 校内研究が計画的に推進できている。		研究記録 教職員自己評価	B	人権教育を基盤とした学級づくり・授業づくりを中心に、一人一回以上の研究授業を行った。 授業公開週間を月に1回設定し、互いの授業力の向上を図ってきた。	○	○	コロナ禍の授業は、班での話し合いや作業などが難しいなか、先生方は児童に分かりやすく工夫して行っていると感じる。これからも教職員一人一人がめざす教師像を持ち、自己研鑽を続けて欲しい。
	項目 指標	研修したことの共有化と共通理解 社会の変化に対応した教育の創造に向けて進んで研修し、自己を高めるようにしている。		教職員自己評価					

施設整備	項目 指標	安全点検の徹底 安全点検が確実に実施され、営繕ができています。		点検記録 教職員自己評価	A	毎月の安全点検で、校舎内外の安全点検には複数の教職員で目配りをしてきた。補修箇所についても総務課や業者に連絡したり、係で対応するなど迅速に対応していく。	◎	◎	今後も定期的な点検を行うとともに、各自の点検場だけでなく、児童の休憩時間や放課後などを利用して、普段、目の届かない場所も気配りをして、点検もしてほしい。
	項目 指標	学習・生活の場として適正な施設設備の管理整備 学習・生活環境の整備が計画的にできています。		教職員自己評価					
教 育	項目 指標	分かる授業づくり 児童が「分かった」「できた」と思える楽しく達成感のもてる授業を行うよう、創意工夫に努めた。		授業研究 学習記録 児童の様子	B	「夢をもち豊かな心で互いに高め合い夢をもって進んで行動する児童の育成」をテーマにし、人権教育を基盤とした学級づくり・授業づくりに取り組んできた。しかし、コロナ対応の為、児童同士の関わり合いのある授業形態が取りづらくなった。今後、コロナ禍の中でどのように「主体的・対話的で深い学びの授業づくり」を行っていくことが課題である。 兵庫型教科担任制と少人数授業、同室複数指導等により、個に応じたきめ細かな指導を充実し到達度に応じた補充学習を行う。 「御崎スタンダード」を活用し、教職員の共通理解の元、学級づくり、授業づくりに取り組み、今後も継続する。	○	◎	今年度は、グループ同士などで助け合ったり、教え合ったりするなど児童同士の関わり合いを中心とした授業づくりが難しい環境で児童一人一人の学力を保障するため聞き方やノート書き方の指導が見て取れ、児童が伸びやかで活発に学習していた。更なる創意工夫、充実を努めて頂きたい。 保護者アンケートの結果から、少人数授業や同室複数指導などのきめ細かな指導や、朝読書や基礎プリントの活用などにより、基礎・基本の定着に効果を上げているのがよく分かる。一方、保護者が先生方の努力を認めながらもさらにすべての児童に「分かる授業」を期待していることも分かるので、家庭学習の習慣作りと関連させながら充実させてほしい。
	項目 指標	個に応じた指導の工夫と基礎基本の定着 新学習システムやきめ細かな指導、ぐんぐんタイムでの習熟学習等、個に応じた指導を工夫した。		学習記録 ノート、評価資料 教職員自己評価					
	項目 指標	朝の読書活動 ブックママと連携する等、読書意欲を喚起し、年間50冊以上の本を読むことができるよう取り組んでいる。		読書記録 ブックママ記録 児童の様子					
	項目 指標	体験的・問題解決的な学習の展開 体験を通して主体的に学ぶ学習展開や学習形態を設定し、学ぶ意欲や関心を高めた。		授業記録 授業公開					
	項目 指標	評価方法の創意工夫 評価基準や評価方法を適切に定め、達成状況を把握し、評価の観点に沿った評価を進めている。		ノート 評価資料 児童の様子					

課程	道徳教育	項目 指標	全教育活動の中での道徳性の育成 全領域において道徳性を培うように計画している。	道徳教育年間指導計画の 評価・アンケート	A	<ul style="list-style-type: none"> 道徳教育の全体計画のもと、各教科をはじめあらゆる教育活動の特質に応じて、全ての教職員が協力して道徳教育を推進する。 道徳の教科化にあたり、教職員が相互に道徳の授業を見あうなど、授業スキルの向上を継続してを図る。 	◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> 全教育活動の中で、自分と友達を大切に、みんなで力を合わせて楽しい学校づくりを目指していることが、学校行事や参観日などの子ども達の様子を見ているとよくわかる。 道徳の時間も確保され、先生方の授業力も研修を行うことで向上が図られている。今後は、家庭との連携をこれまで以上に工夫してほしい。
		項目 指標	互いを認め合う学級作り 学級の中で、人間の生き方の自覚や道徳的実践力を育成している。	児童の様子 アンケート					
		項目 指標	道徳カリキュラムの整備と道徳の授業の充実 カリキュラムを整備し心に響く授業を心がけ、違う価値観の意義・大切さを知らせている。	カリキュラム 教職員自己評価					
	総合的な 学習の時間	項目 指標	ふるさと意識の醸成 地域や児童の実態に応じた特色ある展開がなされている。	カリキュラム アンケート	A	<ul style="list-style-type: none"> 環境教育、福祉教育などの体験活動は、地域人材の活用や全学年で取り組むなど充実している。 活動内容などを記録した「みさきっ子ノート」を活用し、今後の学習や生活に生かせるよう、評価活動の一層の充実を図っていく。 	◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> 3年生を中心としたアマモの学習や地域の方々との交流を通じた体験学習などは、御崎小学校の地域性を生かした取組なのでコロナ禍が落ち着いたら継続し、充実させてほしい。 全学年で様々な福祉体験活動を行っていることは、大切であり、続けてほしい。
		項目 指標	各教科との関連を図った指導の展開 各教科で身につけた知識や技能を相互に関連づけ、学習や生活に生かして総合的に働くようにしている。	教職員自己評価 授業研究					
	特別活動	項目 指標	自発的・自治的な態度、支持的風土の涵養 児童は、学級活動・行事・クラブ活動・委員会活動等に積極的に参加し、仲間を思いやった行動ができています。	児童の様子 教職員自己評価 アンケート	A	<ul style="list-style-type: none"> 特別活動を人権教育の基盤としての人間関係づくりととらえ、たてわり班活動や児童会活動、学校行事を通じて児童の主体性を育む取組を従来から継続してきている。 「キャリアファイル」を活用し、これまでの活動を振り返らせたり、自分の変容や成長を実感させたりすることで、児童の人間関係の向上や自主的、実践的な活動がより活性化するように努める。 	◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> 昔に比べ、異年齢集団の自然的な交流が少なくなっている中で、異年齢交流活動に熱心に取り組まれていることが、学校行事などの紹介などでも伺われる。参観日や学校行事などで児童は、明るく仲よく楽しく過ごしている様に感じるのは、この取組の成果でもあると思う。 今後もしじめ問題などが起こらないように、児童の人間関係を良好に保ち、見守っていくことが大切だ。
		項目 指標	自主的・実践的な活動の活性化 学級活動(話し合い活動)や係活動などに進んで参加し、学級をよりよくしようと諸問題の解決に努めている。	授業研究 児童の様子 授業研究 児童の様子 教職員自己評価					
		項目 指標	異学年交流(たてわり班活動) にこにこ班等の異年齢集団の中でふれあい協力する中で、認め励まし合う仲間づくりができています。						
	特別支援 教育	項目 指標	一人一人の教育的ニーズに応じた特別支援教育の充実 児童個々の課題を明確にして一人一人の発達段階に応じた指導を行うよう努める。	教職員自己評価 指導記録簿	A	<ul style="list-style-type: none"> 「合理的配慮」や児童理解の職員研修を通して全教職員の児童理解の力が高まった。今年度も専門家による児童理解研修を年度当初の早い時期に実施した。来年度は、より実践的な研修を行いたい。 個別的教育指導計画、教育支援計画の定期的な見直しを校内委員会でやってきた。今後も充実した指導になるようにしたい。 	◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の児童が自立できるように、あたたかい雰囲気大切にしつつ、全校で特別支援学級を支援し、取組を一層進めてもらいたい。 より一層一人一人の児童理解を進めるために、今後も指導計画や支援計画の見直しや引継ぎを確実に行ってほしい。 児童理解を深めるためにも、職員研修を継続的に行ってほしい。
		項目 指標	校内支援体制の充実 カウンセリング研修・特別支援教育研修を持つことができています。	就学指導記録 教職員自己評価					
		項目 指標	適切な就学指導 教員の共通理解や関係機関との相談等、適切な就学指導に努める。	教職員自己評価 指導記録簿					
	人権教育	項目 指標	仲間づくり 自他の命を大切に思いやり助けあい支え合う共生の心を育ててきた。	児童の様子 アンケート	A	<ul style="list-style-type: none"> 人権課題に直結する授業や人権の視点で分析した「道徳科」の授業に向けて教材の選択を行う。 違いを認め合い、一人一人が活かされる学級づくり・授業づくりを中心として人権教育を推進している。教師と児童、児童相互の前向きな人間関係をより一層深め、「指導的評価活動」を通して自己有用感を育む学級経営を進める。 	◎	◎	<ul style="list-style-type: none"> アンケート結果から、児童が仲よく過ごしていることが分かる。児童の心身の成長に向き合い、一人一人が自分の意志を伝えられる様に一層取り組んでほしい。 困ったときに相談相手になれるように、一人一人の児童によく話しかけてやってほしい。今後とも児童が楽しい学校生活を送れるよう、細かい所まで注意して見守ってほしい。 家庭や地域との連携を深め、すべての大人が児童一人一人に温かい愛情を注ぎたい。
項目 指標		人権尊重の環境整備 言語環境や教室環境、校内掲示を含め、人権環境を大切に、人権尊重の精神に立った教育環境を整備した。	教職員自己評価 点検記録簿						
項目 指標		自尊感情を育てる 日々の教育活動やふれあいの中で、自分に自信をもち、主体的に行動できる児童の育成をめざした取組を推進する。	児童の様子 教職員自己評価 アンケート						

自己評価における特記事項

・学校自己評価は、A=4 B=3 C=2 D=1として数値化し、その平均値によって達成状況を表した。
A: 3.4以上 B: 2.8以上3.4未満 C: 2.4以上2.8未満 D: 2.4未満

項目以外の点での来年度の課題や具体的改善方法

- ・児童・保護者アンケートにおいてCやDに評価をつけた児童・保護者の思いを丁寧に取り、その思いを原点として教育実践の深化を図る。
- ・赤穂市教育振興基本計画(赤穂教育プラン)に沿った「夢を育む教育」をめざして、その成果と課題を明らかにし、新たな課題に向けて実践化に励む。